

ワークショップ（展示）

2023 年 3 月 29 日

1. 大阪ヘルスケアパビリオン UD 推進チームの発足

大阪ヘルスケアパビリオン UD 推進チームの発足について提案し、万博開幕まで、会期中、閉幕後まで、ユニバーサルデザインの実現に向けて UD 推進チームを発足し取り組んでいくことが合意されました。

<発足の経緯・趣旨>

- 大阪ヘルスケアパビリオンでは、SDGs 達成とその先の未来社会のモデルの創造と発信をめざし、ユニバーサルデザインを実現する建築・展示・運営の計画策定に向け、2022 年3月から、エキスパート、当事者の皆さんとともに、検討を進めてきました。
- この1年間、「みんなでトイレプラン作成チャレンジ」や「取組みの方向性」の検討を進める過程で、みんなで一緒に考えながら実現をめざしていく、この取組み・進め方自体がユニバーサルデザインとの共通認識を得たところです。
- この共通認識のもと、大阪・関西万博の開幕まで、会期中、閉幕後のフィードバックまでを含め進めることを確認するとともに、あらたに組織としてチームを発足することを提案しました。

<メンバー>

- エキスパート 石塚裕子先生(大阪大学大学院人間科学研究科)
ユニバーサルデザインの観点から専門的なアドバイスをいただくため、2025 年日本国際博覧会大阪パビリオン推進委員会が委嘱
- お困りごと当事者のみなさん 20名※(本人以外に、介助者、支援団体も参加)
車いす使用者、視覚障がい者、聴覚障がい者、精神障がい者、知的障がい者、発達障がい者、LGBTQ、医療的ケア児、子育て支援 ※ワークショップ開催時点の人数
- 作り手となる企業
株式会社サイエンス、株式会社シブタニ、TOTO 株式会社
- 一般社団法人2025年日本国際博覧会大阪パビリオン（建築・展示業務受託者含む）

2. 建築ワークショップの報告

前回ワークショップで報告した避難計画に対する質問について、回答しました。また、みんなトイレプラン(案)に対する意見のまとめを報告し、案について了承を得ました。

3. 展示ワークショップ

大阪ヘルスケアパビリオンの展示全体イメージを共有し、その後、3つのグループに分かれ、博物館や美術館などで、「感動した!!」、「残念だった…」展示・設備・運営について、付箋に書いてグループ内で共有し、班ごとに発表しました。



写真: 展示ワークショップ

ワークショップの意見(まとめ)

A 班

- ・健常者と区別しないルートなど、誰もが同じ体験ができるのが理想的
- ・触れる・聞く・香りなど、五感を使った体験は心と身体の記憶に刻まれる。
- ・体験するか、しないかを「選んでもらう」など、選択肢があるとより良い。
- ・展示量や人の多さなどの疲労感・ストレスのケアとして休憩場所を設置

B 班

- ・五感は人によって感じ方が異なる。「面白い」と「不安・恐怖」は表裏一体
- ・可能であれば全員が同じ体験を、同じ場所、同じルートでできるのが理想
- ・展示の位置や展示情報は、選択肢がいくつかあるといい。
- ・万博を楽しみたい、参加したいという気持ちはみんな共通

C 班

- ・展示や体験の内容、設備、音、においなどの事前情報が欲しい。
- ・情報は、アプリ、解説イヤホン、ガイドなどの選択肢があることが大切
- ・五感で感じ、心と身体が記憶するような体験を！
- ・感覚過敏の人が安心して体験できるよう、時間を分けるなどの工夫